

### 六区 歩け歩け運動

分館長 北川 脩

#### 大切に継承したい行事

七月十八日、快晴。当日の飛び入り参加を含め六十五名。乳母車の赤ちゃんから高齢の方まで、多くの区民に参加いただき、暑き夏の一つの思い出ができました。

日頃の運動不足を解消すべく、下屋敷を出発し、町屋敷、萩倉、所沢で合流。一人ひとり各々のペースで、森林から流れる爽やかな風を受けながらゴールを目指しました。

ゴールの大平では、協賛団体の方々の手作りの豚汁、焼きそばで空いたお腹を満たしました。子ども達はスイカ割りに挑戦し、大人の誘導で見事真っ二つに割ることができ、全員で冷えたスイカをいただきました。

この行事は、約四十年間も続く地域の行事です。

これからも大切に継承していきたいと思えます。



### 七区 ラジオ体操

分館長 久保田 澄

#### ラジオ体操は分館事業の発信基地

四月一日から恒例のラジオ体操が、北小校庭において開始されました。朝の清々しい空気の中、子どもからお年寄りまで大勢の人が集まってきました。分館役員も参加し、日頃の情報不足をここで補っています。特に御柱年だったので、分館事業の大きな柱と位置つけた熊野神社前夜祭の時には、夜の打ち合わせだけでは不十分で、仕事の都合等でなかなか日程調整ができなかったため、この朝の一時は貴重なものとなりました。この北小校庭での打ち合わせは、分館活動の発信基地と言えます。これは歴代役員から引き継がれているもので、七区の特徴と言っても過言ではありません。このように役員の情報交換や地域の人々とのふれ合いにより、分館事業が益々発展し、地域全体が明るく住みやすい所になるよう願っています。



### 八区

#### 納涼祭

##### 交流を深めた良い一日

分館長 渡辺 充健

恒例となった区民納涼祭。八月十四日、八区公民館にて開催しました。当日は朝から雨が降ったり止んだりの空模様となりましたが、雨よけなどの工夫をし、屋台のテントを屋外に設置することができました。幸いにもオープニングの頃には雨も上がり、大勢の区民の皆様にご来場いただきました。

グラウンドの状態が回復せず、残念ながら練習を重ねた盆踊りは、行うことができませんでした。しかし子ども達を対象とした花火大会は、消防第七分団の皆さまの協力を得て、安全に楽しく行うことができました。

屋台運営では、今年も中学生ボランティアに参加してもらい、大変助かりました。最後には大抽選会で大いに盛り上がりました。同じ区内に居ながら、なかなか顔を合わせる事のない区民の方々が交流を深める良い一日となりました。



### 九区

#### 料理教室

分館長 田中 義徳

##### 和やかな楽しい時間が

十二月十日、星ヶ丘公会所にて、婦人部による料理教室が開催されました。料理に興味のある総勢二十一名の区民の皆様が参加しました。

メニューには、パエリア風炊き込みご飯と、脂肪を落とす作用がある紅茶で煮込んだ紅茶豚と、マヨネーズを減らしその代わりに、ヨーグルトを加えた低カロリーのマゼドアンサラダになりました。どのメニューも健康とおいしさを考えたものです。



和やかな雰囲気の中で料理教室が始まり、参加者は真剣な表情で料理を作り始めました。大部分は主婦の方なので、すぐに料理が出来上がりしました。

出来上がった料理を食べる時になると、今までの真剣な顔は笑顔になり、楽しい時間を過ごすことができました。



### 十区

#### 子ども合宿会

分館長 吉澤 正彦

##### 名称と形式を変え参加しやすく

今年度は高学年児童を対象に開催しているジュニアリーダー研修会を、低学年から参加できる「子ども合宿会」と名称を変えて、富部公民館で行いました。

「ジュニアリーダー研修会」、小学校PTAで行っている「夏を楽しむ会」、分館主催の「家庭教育講座」を一緒にして、子どもたちの都合に合わせて参加できる形式をとりました。

一日目はジマスのつかみ取りを行い、木枠で作った水槽に放して、グループごとに手でつかみました。諏訪湖でとれた鯉、うなぎ、テナガエビも一緒に放しました。みんな服を濡らしながら、楽しくつかみ取りをしました。

諏訪湖探検では釣りをしましたが、ブルーギルが釣れて、生態系が変わったことに驚きました。

二日目は、創作活動をみんなで行いました。

この合宿を通して、子ども達のつながりも強くなったと感じています。



### ほのぼのまちかどで



「ボンジュール」(フランス語)  
「ニイベオゴ」(モシ族の言葉)

西アフリカのブルキナファソでは、今頃、このようなあいさつが交わされているだろうか・・・。

二カ月前、青年海外協力隊として活動された宮沢久美子さんのお話を聞く機会を得た。電気も水道もない現地へ赴いた当初は呆然としてしまったと。宮沢さんの二年間にわたる活動は、決して平坦ではなかった。

しかし、多民族で貧しいこの国の平和を支えているのは「あいさつ」と「笑顔」と「分かち合う精神」であったとも。ブルキナファソでは、その場にいる人たち一人ひとりにきちんとあいさつを交わすのがマナーだそう。

講座終了後、たっぷり砂糖を混ぜた、少し酸味のあるハイビスカスのお茶と乾燥させたマンゴーをいただいた娘は、「おいしい！ブルキナの香りがするね。」  
(篠遠)